

植物性ケイ素（シリカ）とは！

1. 成人一人一日当たり10ミリグラム～40ミリグラム必要。加齢とともに体内のシリカは減少する。体内では生産することが出来ず、30代では0歳児の半分になるため、外部からの摂取が必要となる。麦、じゃがいも、青のり等に多く含まれる。
2. 植物性ケイ素（シリカ）は厚労省食品衛生法第11条3項の規定で「人に対して安全性が高い栄養素」であることの証明がされている。
3. 植物性ケイ素は、多孔質で表面積は鉱物性シリカの100倍。無害で吸収性に優れており、なおかつ非結晶性。
4. コレステロール、脂肪を吸着し、血液浄化、血管内動脈硬化を改善させる。血管がきれいになる。すい臓のベータ細胞を活性化し、インスリンの分泌を促進し、血糖値の正常化を促進。
5. 毛髪と爪の発育と細胞の活性化。
6. 体内免疫細胞の活性化。
7. 老化防止。
8. 肺組織の粘膜の弾力性を快復させ、気管支炎の抑制。
9. ミトコンドリアを活性化し、エネルギー効率を上げる。
10. 脱毛、シワ、シミ、美肌、育毛の促進。
11. 腸内環境の改善。結核の治療と予防。不眠症、頭痛、耳鳴りの改善。リウマチ、パーキンソン、アルツハイマー予防。心筋梗塞、脳梗塞の予防と治療。

12. 老廃物の吸着に優れていて、アトピーの改善が期待される。
13. 腰痛、膝関節炎、神経痛の改善。
14. 抗がん作用。
15. 腎臓結石などの結石防止。
16. 酸化食品を抗酸化食品に体内で還元する。
17. 薬物、化学物質、油類などを吸着し体外に排出する。

竹のささやき（笹炭）における植物性ケイ素

笹炭に含まれるケイ素は、植物性の単体ケイ素である。

一日6グラムの有害物質を日本人は摂っている。
年間で4キログラム～8キログラムの量。

それらを排出する力を植物性ケイ素（シリカ）は持っている。

竹のささやき（笹炭）には植物性ケイ素、竹康炭（竹炭）には鉄分が多く含まれる。

黒い炭甘塩坊（笹炭入り炭塩）としての特徴

- 水溶液は、pH 8.4～9.26。持続性のあるアルカリ性。
- 酸化還元電位も+125～+190と、高い。

